

株式会社おとうふ工房いしかわ



こだわりの豆腐で
日本一の夢に挑戦

地域の活性化を先導する

ザ・リーディングカンパニー 第9回

COMPANY PROFILE

〒444-1304
愛知県高浜市豊田町1丁目204-21
設立 平成3年 資本金 9,900万円
年商 51億3,000万円(平成28年度) 従業員 500名

豆腐のほか湯葉、豆乳、がんも、生揚げなどの大豆加工品から、パン、スイーツ、ドーナツ、惣菜まで幅広いアイテムを自社工場で製造・販売。生産者および消費者との顔の見える関係を大切に、国産原料にこだわっている。国策として進める第一次産業の振興に歩を合わせ、大豆、小麦、米などの増産にも協力。地球環境の保護、地域社会の繁栄を経営の指針とする。地域密着型の直営店も計二八店舗。

とうふの一世帯当たりの消費量は、一年間で一〇二・五丁(個)、月八丁〜九丁と言われている。生産量、販売量ともに近年はほとんど横ばいで、米に比べて健闘していると言っても過言ではない。しかし、業界全体は沈滞傾向で、昭和三十五年に五万一〇〇〇軒を数えた豆腐屋は現在約七五〇〇軒。年間約五〇〇軒が廃業に追い込まれているという。

そんな厳しい業界の中で、ひときわ注目を浴びているのが、おとうふ工房いしかわである。有有限会社としてスタートした平成三年第一期の売上高は四〇〇〇万円、以降、一二期は一〇億円、一二期は三〇億円、そして二五期には五〇億円の大台を超え、いまや売上げ規模は、全国で一〇位前後、東海地区ではトップという躍進ぶりだ。「国産大豆の豆腐に限ると、

当社は全国ナンバーワンです」と、石川伸社長は語る。

石川社長の実家は豆腐屋。明治時代に曾祖父が創業し、祖父、実父が家業を継いできたが、石川社長は大学に進学。家業を継ぐという意識は薄かったらしい。しかし、親の気持ちを察して、卒業後は大豆を扱う商社に就職。五年間勤めた後に実家に戻り、家業を継ぐ。一年後の平成三年、個人商店から有限会社にし、屋号を「おとうふ工房いしかわ」に改める。「夢は日本一の豆腐屋になることでした」(石川社長)。そのために、五〇〇〇万円を投じて大量生産体制を整備する。だが、期待に反して売上げが伸びず、一年後は家業を継いだときの意気込みは吹っ飛び、自信喪失してしまう。

八方塞がりの中で突破口となったのが自然食店との出会い。そこ



石川伸社長

で、国産大豆の良さと、にかりが大豆のうまみを引き出すことを教えられた。また、子どもたちが口に入れるものは、安全で安心な本物であること、伝統的な食品は、伝統的な技術で作るべきだということに気付く。そして苦労の末に「国産大豆とにかりの豆腐」を商品化。その結果、スーパーマーケットや生協などに販路が開け、作業場は休む暇もないほどの多忙を極めたという。

モンドセレクション金賞など 数々の受賞歴が

経営は安定したものの、石川社長「新しい豆腐を作ってみた」という挑戦意欲は衰えなかった。甘みとコクのある理想の味を求めて、オリゴ糖を加えた新しい豆腐を開発。「究極のきぬ」「至高

のもめん」と名付けて売り出した。豆腐特有のにおいも抑えた画期的な商品だったが、当初の反応は鈍かったらしい。しかし、その味が口コミで広がり、発売二年目からは、前年比二〇〇%以上の売上げが続いたという。

新商品開発は豆腐にとどまらなかった。豆腐を作った後に残るオカラの有効活用に着眼。菓子業者と共に試作を重ね、スナック風の菓子「きらず揚げ」を商品化する。売り出してみると、固い菓子にも関わらず、子どもから大人にまで好評で、大ヒット商品になる。

「きらず揚げ」は、同社の販売戦略変更にも一役買った。最初は、店頭販売から始まったが、通販、スーパー、生協などへ広がり、さらには豆腐店、そして菓子問屋までと、販売チャネルの多様化に大きく貢献。同社躍進の起爆剤のひとつになったのである。

アンテナショップを出店したのは平成十二年。以後、少しずつ業態を変更して直営店を出店、いまでは地元愛知県に二三店舗、関東

に四店舗、関西に一店舗、計二十八店舗を展開する。本社に隣接する直営店「大まめ蔵」は、一階は焼きたてのパンとおとうふの惣菜、スローフードを販売するショップ。二階は、おとうふとパン、豆乳のカフェレストラン「豆蔵」と団体予約用個室の「まめの蔵」を併設する。

石川社長が大切にするのは「納得のいく豆腐づくり」と「人々への温かい心配り」である。

社員が田んぼの草むしりを手行う「農泊」研修、先輩が新入社員の面倒を見る「バディ制度」も、社員を育て、「毎日笑顔で会社に来てもらいたい」という気遣いから生まれた。そのほか、子どもたちとの「だいきづきつず」食育活動、アフリカ・ケニアのインターン生の受け入れ、授産所での菓子作りのお手伝いなど、「みんなを幸せにしたい」という想いが息づいている。

同社の経営努力は広く認められ、「ふるさと小包優良生産者」「愛知ブランド企業」「内閣府 食育推進ボランティア表彰」



大豆畑

「モンドセレクション金賞」「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」など、数々の表彰、受賞歴を誇る。また、公的金融機関の融資、支援先として採択されている。昨年は政府系金融機関の支援を受けて、第四工場を新設。生産ラインも一新し、量的、質的に業界トップレベルの製造体制を構築。「二五期、二六期は売上高も横ばいでしたが、当期からは毎年一一〇%の成長を見込んでいます。物流の拠点を大阪、神奈川に設置していますが、生産拠点も県外に展開したい」と石川社長。将来の株式市場も視野に、着々と体制を整えていくようだ。

(東海財界 企業経営研究会

福崎信行)